文法

修飾語のはたらき 1

修飾語のはたらきと使い方を理解する

月　日

名　前

●修飾語とは

次の文は、主語と述語だけでできています。

主語 ねこが、 述語 鳴きました。

□の言葉をつけ足すと、文がくわしく、分かりやすくなります。

どんな 小さな ねこが、 どのように ニャアと 鳴きました。

このように、文をくわしくする言葉を**修飾語**といいます。

修飾語には、「どんな」「どのように」「どのくらい」「いつ」「どこで（の・を・へ・に）」「だれに（の・を）」「何を（の・に）」などを表す言葉があります。

文の中の
「何が(は)」「だれが(は)」に
当たる言葉を**主語**、
「どうした」「どんなだ」「なんだ」に
当たる言葉を**述語**というよ！

6
もんせいかい 問正解

学習プリント無料ダウンロード
ちびむすドリル
© ちびむすドリル

1 次の文の中から、修飾語を一つずつ見つけて、線でかこみましょう。

① どんな 赤い 主語 花が、 述語 さきました。

② 主語 すずめが、 どのように パタパタと 述語 はばたく。

③ 主語 風船が、 どこに 空に 述語 うかぶ。

④ だれの わたしの 主語 妹は、 述語 三才です。

⑤ 主語 お母さんが、 何を 手紙を 述語 書く。

【修飾語の見つけ方】

❶まず、主語と述語を見つけましょう。
（主語と述語を続けて読むと、意味のわかる一つの文になります。）

赤い 主語 花が、 述語 さきました。

❷あまった言葉が修飾語です。

修飾語 赤い 主語 花が、 述語 さきました。

2 次の文に、修飾語をつけ足して、くわしくしましょう。

犬が、（「かわいい」「大きな」「白い」「ぼくの」など）（「ワンワンと」「はげしく」「庭で」「うれしそうに」など）ほえました。
（一つ以上書けていれば○）